



## 合唱コンクールを終えて

10月17日(月)に刈谷市総合文化センターで合唱コンクールが行われました。結果は以下のようにになりました。

金賞：1組 銀賞：5組 銅賞：3組 特別賞：7・8・9組

順位にかかわらず、イエローズの誰もが、当日は、最高の演奏にするために最大限に集中して善良をつくして歌ったり、伴奏をしたり、指揮をしたりできたと感じました。最高学年としてふさわしい演奏がどのクラスもできていました。以下は、各クラスの事後の作文です。

私は伴奏を担当しました。服部先生が3年1組に合う曲を教えてください、「地球の鼓動」になったときは、特に何も思いませんでした。クラスに似合う曲になってよかったと思った程度でした。でも、楽譜を渡されたとき絶望しました。今の自分の技術では弾けないと思い、忙しい中、夏休みに少しずつ練習しました。指揮者のオーディションでは、候補者の3人とも仕上がっていたので、プレッシャを感じました。クラスの皆の歌声は元気がよく、楽しい雰囲気があったので、1・2年生の頃より伴奏をしっかり練習しました。

最後のクラス練習では、皆で円陣を組み、クラスが一団となっているようで、とてもうれしく思いました。

本番では緊張しすぎて、周りの人が声を掛けてくれても、ずっとつらいままでした。前奏のところでは手は震えていて、指揮者に合わせることで手一杯でしたが、歌が入ると一気に安心しました。最初は、皆の歌が上手いので失敗したらとても心苦しいなど思っていました。しかし、歌が伴奏に重なった瞬間、解放されたような爽やかな気分になりました。演奏している中で、ミス数を数か所してしまいましたが、自分の中で一つ一つのミスをすぐに切り替えることができ、今までで一番気持ちよく奏することができたと思います。



私は、歌のアドバイスや大きな声で指示を出すこともしていないので、そこは残念だと思っています。でも、その時間で指のタッチの強さ、感情の入れ方、力の抜き方、ペダルのタイミングなど細かいところを丁寧に修正できたので、よい伴奏の仕上がりになったのではないかと思います。練習している中で上手く弾けないときもあり、不安になることがたくさんありましたが、クラスの子たちがたくさん褒めてくれて自分に自信がもてました。短い期間でしたが、とても成長することができたと思います。よい思い出になりました。

中学校生活最後の行事の合唱コンクールで、私は悔いなく3年間の思いを出し切ることができました。

練習では、本当にまとまりのまの字ありませんでした。声を張らないと3列目まで届かないので、のどは常にガラガラで、部活やってきましたかみたいな感じでした。そんな中、元気の源になったのが、A君の顔です。話したくても話せない「困ったなー。」みたいな感情が無意識の中で出ていて、毎回その顔が本当に分かりやすいんです。面白いといったら失礼になるんですけど、つい見たくなる中毒性もあって、それでいて日めくりカレンダーのようにコロコロ変わるので、新たな一面を見たような感じで、とても楽しませてもらいました。

たくさん大変なことや悩んだことがありましたが、今回の合唱コンを越えるものは全て大成功と言ってよいと思っています。皆と朝から練習をグダグダとしながらも、どんどん成長していったのは、自分的にもよい影響をもたらしてくれました。

高校生になってからももっと大切に楽しい行事はあると思いますが、この経験を大切にしながら、そのときそのときのベストでキラキラなものを目指します。

今回のMVPは絶対にA君だと思います。おみこしでかついであげたいくらいです。

合唱コンクールを終えて、自分の中で楽しかったという気持ちが一番大きいと思う。1年生のときは体育館で行い、2年生のときは中止と異例の2年間を過ごした分、今回ホールで歌うことができ強く思い出に残った。

最後の合唱コンクールだったので、悔いなく終わることができてとてもよかったと思う。

練習が始まったばかりのときは、音をとることさえ難しく、最後まで歌える気がしなかった。練習を重ねて初めて全員の声が合わさったときの達成感は、合唱でしか味わえない。その感覚を実感できてとてもよい経験になった。最初は、音量をコントロールしたり、強弱を付けたりすることが全くできなかったので、多くのダメ出しをもらったが、褒めてもらえることも増えたので、それを励みに頑張ることができたと思う。

本番が近づくとつれて他クラスの合唱練習にも力が入り、クラスに焦りが見えたときもあった。しかし、全体で話し合っって目標を決めた日を境に、声にまとまりができ、皆が自信をもって歌っているように感じた。自分自身も声を出しやすくなったので、一つの目標を立てて実行しようとする気持ちはとても大切だと思った。

当日は、約2週間の練習の集大成を発揮することができた。結果は金賞ではなかったが、練習してきた過程に後悔することなく終わることもできた。結果に目を向けることも大切だが、その過程で何をして、何を得たかにも目を向けると、今後に生かせると思った。

私は今回の合唱コンクールで、楽しさや金賞を取れなかった悔しさを体感することができたので、最後の合唱コンクールとしてふさわしいものになったと思う。



私は初めてパートリーダーになりました。最初の練習では、皆をまとめられるかなという不安と合唱コン楽しみだなという気持ちでした。いざ練習を始めて見たら、不安な気持ちだけで一杯になってしまいました。全然皆がまとまらないし、歌もダメダメ、本当にどうしようと思いました。練習を続ける中で、皆だけじゃなく伝えるべきことを伝えられていないリーダーにも問題があると気付きました。

体育館での練習も上手くいきませんでした。教室での練習の声よりも全然小さくて、まだまだだなと思いました。でも、そこで私は不安になるのではなく、もっと頑張るぞというやる気で一杯になりました。その後の練習は大変でした。毎日たくさん歌って私はヘトヘトでした。きっと皆もそうだったと思います。でも、皆そんな疲れを全く見せず、リーダーの指示にも従ってくれるようになってきました。あっという間に練習が終わってしまいました。

そして、いざ本番の日、1・2年生の歌を聴いて緊張が高まった。歌えるか心配だった。3年4組が呼ばれたとき、心臓が飛び出るかと思ったけれど、舞台上に上がったら今までの不安や緊張は消えた。私の中では一番の合唱になりました。この合唱コンクールを通して、クラスの仲が本当に深まったと思います。そして、協力する大切さやリーダーの大変さを知ることができました。とてもよい経験になったと思いました。

僕はこの合唱コンクールを悔いを残さず、終えられたことが一番よかったなと思います。後悔は勝負の勝敗で負けることよりも悔しいことなので、やりきることができたのだと思います。僕たちの代は、コロナの影響で合唱コンクールが中止になってしまったり、体育館で行ったりなど思うようにできていませんでした。皆が今年一段とやる気に満ちていたのは、その悔しさを胸に今年は頑張ろうと思えたからだと思います。ホールで歌ったことがなかったことに加え、3年生であり、皆からの期待にプレッシャーを感じた人も、僕を含めたくさんいたと思います。ですが、僕はそこであえてそのことをプラスに考えて練習を本気で頑張る理由に変えることができました。

先輩方の合唱が聞けず、どのくらいのレベルまでもっていけるのか不安でした。しかし、それもプラスに考え、どこまでもどこまでも上に行こうと思えました。

また、僕が、この合唱コンクールを本気でできたのは、クラスを引っ張ってくれたリーダーたちのおかげだとも思っています。真剣にアドバイスをくれたおかげで、頑張ろうという気持ちになりました。

はじめは、合唱は完成度を高めるものだとは僕は思っていました。しかし、練習を重ねる中で、合唱は誰かに届けるものだと考えようようになって行きました。このように考えるようになってからは、自分はリーダーたちに曲を届けようと思いました。リーダーたちの頑張りを曲を通して恩返ししようと考えようになりました。授業後の練習も真剣に教えてくれたことをメモして成長へとつなげられました。銀賞という結果でしたが、やれることはやったので後悔はありません。

皆と一緒にした練習は、一瞬だったけれど最高の思い出となりました。本番で出ってしまった課題は、またどこかで生かせるようにしたいと思っています。





今までは体育館で2年間歌っていましたが、今年はホールに行けました。3年生は最後なので行けてよかったと思っています。とても広くて声は届くのかなあと思いました。間違えたりしないかなあと、歌う直前までハラハラドキドキでした。

誰かが間違えてしまっても、間違えたことを気にせず、思いっきり歌いきりました。完璧ではなかったかもしれませんが、大きな声で歌えたと思っています。

曲紹介については、先生や周りの人に「とてもよかったよ。」と褒められました。

3年生最後の合唱コンクールは、自分なりに精一杯練習や準備に取り組めて悔いはありません。あと残り少ない中学校生活も自分なりに頑張っていこうと思います。

多くの人々が、合唱コンクールの活動を通して、クラスのリーダーや周りの人たちに感謝の気持ちを作文に綴っていたのがとても印象的でした。自分だけの力では物事を成し遂げることが難しいことを改めて実感したことと思います。ただ一点気になったことは合唱コンクールの練習の最初のうちは授業でも学級でも声も出ないし、まとまりもないという状態であり、本番一週間前のブラン



ドン杯で自分たちの合唱はこれではいけないと気付き、そこから一週間猛練習してクラスの合唱を仕上げたという内容の作文を書いていた人もとても多かったということです。確かに当日の合唱とても集中していて丁寧に歌い上げた3年生として恥ずかしくない合唱であったと思います。しかし、もしもブランドン杯をやっていなかったら、今回の合唱コンクールの歌声まで仕上げられたでしょうか？ずっとだらだらした練習を続けていた可能性があったのではないのでしょうか？理想かもしれませんが、合唱コンクールの練習を初期の段階から皆で全力で取り組めていれば、もっとすごいレベルの歌声に達していたかもしれません。もっとすごい満足感も得られていたかもしれません。イエローズの人たちの本番前一週間の歌声の著しい進化の度合いを考えると容易に想像できます。恥ずかしいとか面倒臭いとかいう気持ちが練習初期の頃にあったのではないかと思います。自らそれに打ち勝つ気持ちを少しずつもてるようになるとよいですね。今回の合唱コンクールは確かに力を発揮できた行事ではあったと思います。しかし、上記の課題は2年生の大高クエストの活動あたりから浮き彫りになっているイエローズの課題です。イエローズの皆はまだまだ伸び代があります。現状に満足することなく、今後の入試の向けての取組を通して、自分たちの課題を克服して行ってほしいと思っています。

## 保護者の方へ

先月は、お忙しい中、多くの方に刈谷市総合文化センターまで子どもたちの歌声を聴きにきていただき、ありがとうございました。本番での一曲の演奏に今までの練習の全てをぶつけた気持ちのこもった合唱を聴いていただけたのではないかと思います。



今月は、9日(水)～15日(火)の個人懇談保護者会で来校していただきます。まずは、案内の配布が遅くなってしまい、スケジュール調整等でご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。12月5日(月)～9日(金)の個人懇談保護者会は、入試を受ける事業所や上級学校の確認の場になります。この日を迎えるまでに志望を決断する必要があるため、今回の個人懇談保護者会は、本人の将来の目標や適正、理想とする卒業後の生活、志望する事業所や学校の入試の難易度と現在の学力とのバランス等考慮し、より現実的な入試の受け方を相談させていただくこととなります。2学期中間テストを終え、入試先を考える材料はほぼ調いつつあるので、今回の懇談会が始まる前に一度担任とお子様とで事前の面談をします。そこでの内容を確実に保護者の方に伝えるように指示します。懇談会前日までに卒業後の進路に関する話をしないようであれば、尋ねていただくと幸いです。18日(金)には、第4回目の進路希望調査を配付し、期末テストの手応えをふまえて最終的な希望を記入して、25日(金)までに提出する予定になっています。

また、現在子どもたちは校長面接実施中であり、面接での所作を練習しています。面接会場の入退室を想定して懇談会の教室でも練習の成果を見ていただこうと考えているので、それについてのアドバイスや感想も事後にお子様に話していただくと幸いです。

さて、今月は11月15日(火)に以下の金額で引き落としが予定されています。通帳の確認をよろしくお願いたします。また、24日(木)～25日(金)には卒業アルバムの集金(現金による7,700円の集金)も予定されています。合わせてご用意をお願い申し上げます。



給食費	8,145円
P T A会費	600円
<hr/>	
合計	8,745円

※ 合唱コンクールに参加していない生徒に関しては、P T A会費600円から使わなかった交通費410円を差し引いて190円で精算させていただきます。